

エコアクション21 環境活動レポート



有限会社みちのく

対象期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日

作成日:平成28年8月

● 環境方針

環境方針

基本理念

有限会社 みちのく は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方 針

有限会社 みちのく は、産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の処理、鉄・非鉄金属スクラップの売買、建設機械器具の修理及び売買、鉄鋼業に係わる全ての事業活動とこれらの商品と廃棄物による環境負荷を低減するために次の方針に基づき環境経営活動を推進して、地球環境との調和を目指します。

- 1 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境影響を常に意識し、自主的、積極的に環境への取組みと継続的な環境負荷の削減を図ります。
- 2 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 3 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取組みます。

- (1) 取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上
- (2) エネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量の削減
- (3) 事務用紙廃棄量の削減
- (4) グリーン調達の推進
- (5) 水使用量の削減
- (6) 会社内外の環境美化
- (7) 環境関連法規の遵守
- (8) 環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供

- 4 ひとりひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知するとともに環境レポートで社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムの継続的な改善に取り組み、汚染の予防を図ります。

＜ 改定履歴 ＞	
平成15年11月1日	発効
平成22年4月1日	改定
平成26年4月1日	改定
平成28年3月1日	改定

平成28年3月1日
有限会社 みちのく
代表取締役 澤田 淳

● 事業の概要

(1) 事業者名及び代表者名

有限会社 みちのく

代表取締役 澤田 淳

(2) 所在地等

青森県青森市浪岡大字女鹿沢字西富田344-3

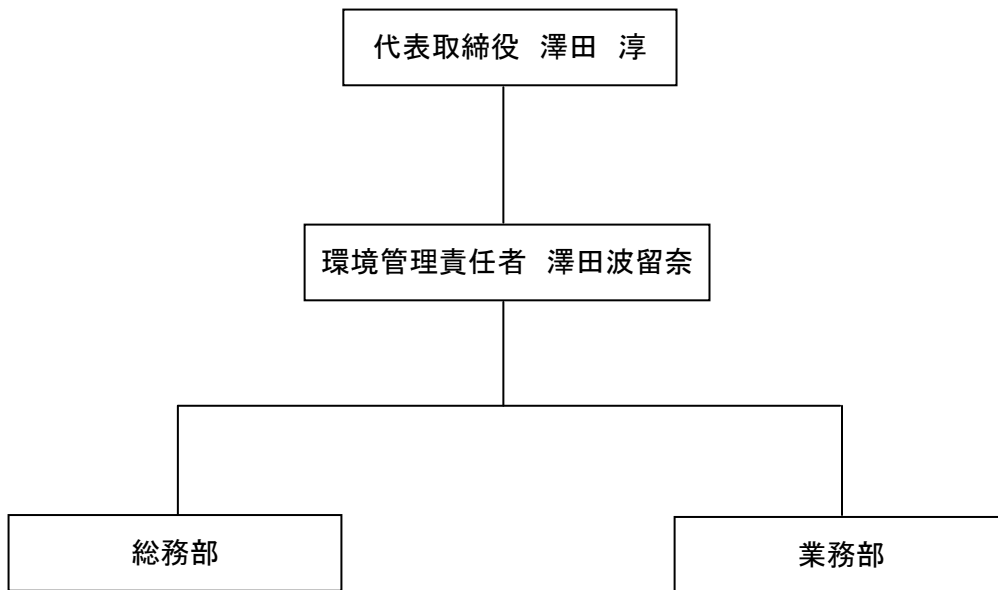
TEL 0172-62-1337 FAX 0172-62-1338

ホームページ:<http://www.em-michinoku.com/>

情報公開:産廃情報ネット情報公開システム

:<http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php>

(3) 環境経営組織図



(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 澤田波留奈

連絡先 : TEL 0172-62-1337 FAX 0172-62-1338

(5) 事業の内容

鉄・非鉄金属スクラップの売買

建設用機械器具の修理及び売買

鉄鋼業

産業廃棄物の収集運搬業

産業廃棄物の処理業

一般廃棄物の収集運搬業

(6) 許可の一覧

行政名	許可証の名称	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	事業の範囲		許可の条件など	
					取り扱う産業廃棄物の種類	積替え又は保管の有無		
青森県	産業廃棄物収集運搬業許可証	00200050630	平成26年10月8日	平成33年10月6日	燃え殻 廃油 廃プラスチック類 紙くず 木くず 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず がれき類 ばいじん(これらのうち、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除き、石綿含有産業廃棄物を含む。)		無し	無し
秋田県	産業廃棄物収集運搬業許可証	00501050630	平成26年5月16日	平成31年5月12日	廃プラスチック類 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず		無し	無し
青森市	産業廃棄物処分業許可証	10822050630	平成27年11月13日	平成34年10月15日	中間処理	破砕 廃プラスチック類 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 圧縮 廃プラスチック類 金属くず 切断 廃プラスチック類 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 剥離 廃プラスチック類 金属くず これらのうち、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。		無し
青森市	一般廃棄物処理業許可証	青市指令廃対策237号	平成27年4月1日	平成29年3月31日	可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみ、「特定家庭用機器再商品化法」で定める対象機器、草木		無し	無し

(7) 設立年月日

平成6年5月18日

(8) 資本金

650万円

(9) 対象範囲

鉄・非鉄金属スクラップの収集販売及び産業廃棄物の収集運搬業・中間処理業

(10) 事業年度及び取組期間

事業年度：毎年3月1日から翌年2月28日

取組期間：平成27年4月1日から平成28年3月31日

(11) 事業の規模

活動規模	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度
処理量	t	447.91	339.47	466.3
売上高	百万円	93.6	90.17	95.05
従業員	人	12	12	12
床面積(事務棟)	m ²	118.86	118.86	118.86
床面積(倉庫)	m ²	277.69	277.69	277.69

(12)施設等の状況

設置場所	設置年月日	施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成6年5月	切断圧縮破碎施設	(切断) 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	切断圧 10.6t
			(圧縮) 廃プラスチック類、金属くず	
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成14年5月	切断圧縮施設	(破碎) 廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリー トくず及び陶磁器くず	圧縮破碎圧32.3t
			(圧縮) 金属くず、廃プラスチック類	
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成28年3月	剥離施設	(剥離) 廃プラスチック類、金属くず	0.96t/日(8時間稼働)
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成16年9月	破碎施設	廃プラスチック類	1.28t/日(8時間稼働)
			ガラスくず	2.16t/日(8時間稼働)

No	付帯設備	車体の形状	車両番号	最大積載量(kg)
1	小型移動式クレーン	キャブオーバー	青森100は2493	9,500
2	小型移動式クレーン	キャブオーバー	青森100は2537	7,100
3	小型移動式クレーン	キャブオーバー	青森100は2499	6,750
4	小型移動式クレーン	キャブオーバー	青森100は2495	4,750
5	-	2tダンプ	青森100す1735	2,000
6	-	塵芥車	青森800す145	1,000

※No.1～No.5は産業廃棄物収集運搬車両として、許可取得
No.5、No.6は一般廃棄物収集運搬車両として、許可取得

(13) 処理実績

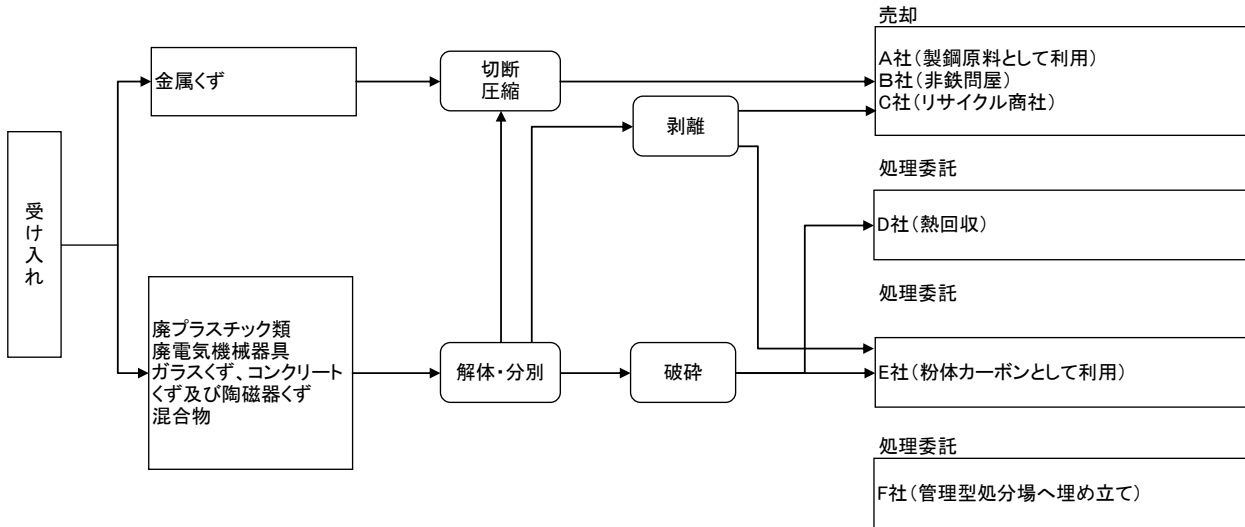
平成27年度(平成27年4月～平成28年3月)

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)	
(i) 収集運搬	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず		0.1	
	金属くず		316.7	
	廃プラスチック類		10.4	
	廃電気機械器具		25.5	
	混合物		112.9	
収集運搬量合計			465.5	
(ii) 中間処理	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	破砕	0.1	
	金属くず	切断・圧縮	316.7	
	廃プラスチック類	破砕	10.8	
	廃電気機械器具		25.5	
	混合物	切断・圧縮・破砕・焼却・剥離等	113.2	
	うち 再資源化等	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	破砕	0.1
		金属くず	切断・圧縮	316.7
		廃プラスチック類	破砕	10.8
		廃電気機械器具		25.5
		混合物	切断・圧縮・破砕・焼却・剥離等	113.2
再資源化等量小計			466.3	
中間処理合計			466.3	
(iii) 最終処分				
最終処分量合計			0	
(iv) 中間 処理後の 産業廃棄 物	最終処分			
	再資源化 (委託)	廃プラスチック類	24.9	
		ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	0.7	
		燃え殻		
	再資源化等 (売却)	金属くず等	440.7	
再資源化等量小計			466.3	
中間処理後処分量合計			466.3	

(14) 処分料金表

廃棄物の種類、数量、収集方法などにより見積もりいたします。弊社までお問い合わせください。
電話番号 0172-62-1337

(15) 処分業に係る処理工程図



● 環境目標とその実績

平成27年度の環境目標は、平成25年度の環境負荷を基準値として環境目標を設定しました。廃棄物排出量の削減は、受け入れる廃棄物の量によって左右され、排出抑制は困難である為、受け入れる廃棄物のリサイクル率の向上を目標としました。また、二酸化炭素排出量は、仕事量によって左右されるので産業廃棄物受入量+総物質投入量あたりの量を目標値としました。

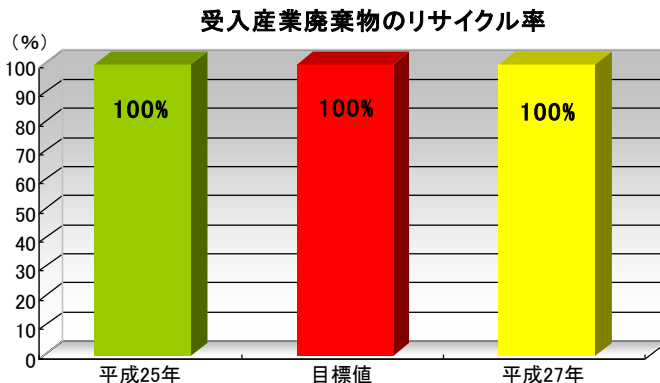
項目	基準値 平成25年度	目標値	実績	達成率	評価	
			平成27年度			
取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上	廃棄物等総排出量(再生利用含む)	454.8t	-	466.3t	-	-
	産業廃棄物リサイクル率 (中間処理うち再資源化量 / 産業廃棄物受入量)	100% (447.9t/447.9t)	100%維持	100% (466.3t/466.3t)	100%	○
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量(産業廃棄物受入量+総物質投入量当り) (二酸化炭素排出量 / 産業廃棄物受入量+総物質投入量)	58.0kg-CO2/t以下 (82,814kg-CO2 / 1,428t)	56.8kg-CO2/t以下 【平成25年度比】 2%減	56.3kg-CO2/t 80,439kg-CO2/t 1,428kg-CO2/t	101%	○
事務用紙廃棄量削減	事務用紙使用量(A4換算)	9317枚	9,131枚以下 【平成25年度比】 2%減	9167枚	99.6%	△
グリーン調達推進	グリーン商品購入割合	74% (23品目 / 31品目)	74%以上	67% (28品目 / 42品目)	91%	△
水使用量削減	総排水量	120m ³	118m ³ 以下 【平成25年度比】 2%減	91m ³	123%	○
化学物質使用量削減	化学物質使用量	取扱無し	-	-	-	-
会社内外の環境美化	地域の環境保全活動への協力	1回	2回以上	2回	100%	○

※達成率150%以上は◎、100%以上は○、70%以上は△、69%以下は×
 ※購入電力の二酸化炭素は、平成24年度、東北電力㈱の排出係数0.6を用いて算定しました。

1) 取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上

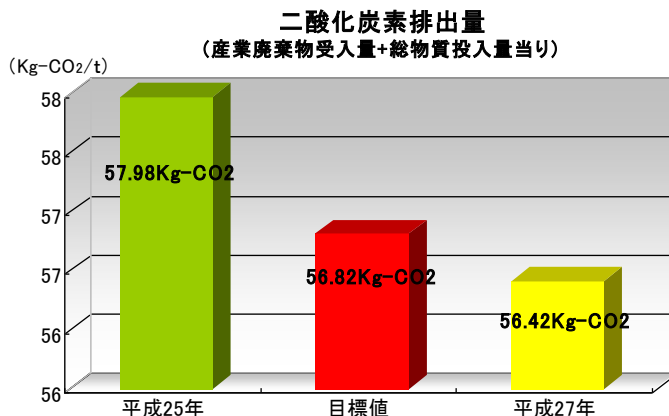
・受入産業廃棄物のリサイクル率は、100%を維持しており、目標を達成しています。

・受入産業廃棄物の全体量は、平成 27 年度で 466.3t となっており、平成 25 年度(基準年)の 447.9t から 4% 増加しています。



2) 二酸化炭素排出量削減

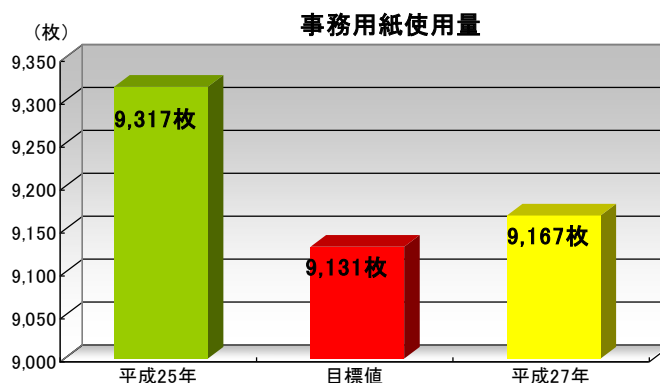
・電力使用に伴う二酸化炭素排出量では、平成 25 年度(基準年)5,261kg-CO₂ から平成 27 年度 4,807 kg-CO₂ と 9% 減少。化石燃料では、平成 25 年度(基準年)7,553kg-CO₂ から平成 27 年度 75,771 kg-CO₂ と 2% の減少となっています。平成 27 年度の二酸化炭素総排出量は、80,578 kg-CO₂ で、平成 25 年度(基準年)の 82,814 kg-CO₂ から 3% 減少しています。



・産業廃棄物中間処理量+総物質投入量当たりで見ると、平成 27 年度では、56.4kg-CO₂/t で平成 25 年度(基準年)の 58.0 kg-CO₂/t より 3% 減少し、目標(56.8 kg-CO₂/t 以下)を達成できました。

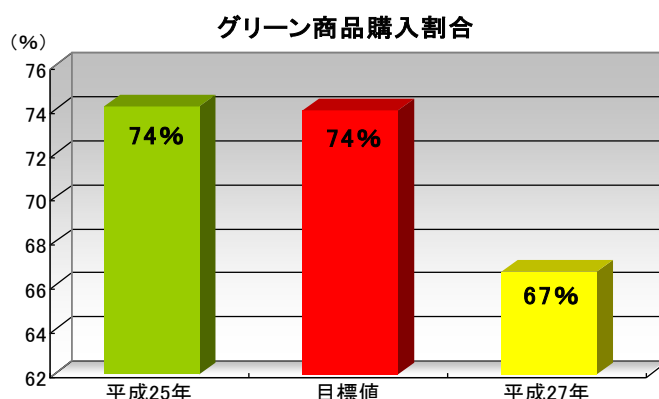
3) 事務用紙使用量

・事務用紙使用量は、平成 25 年度(基準年)の 9,317 枚から 9,167 枚と目標(9,131 枚以下)を達成しなかったものの平成 25 年度(基準年)より 1.6% 減少しています。これは、社内文書の電子化がより定着してきたためと考えられます。



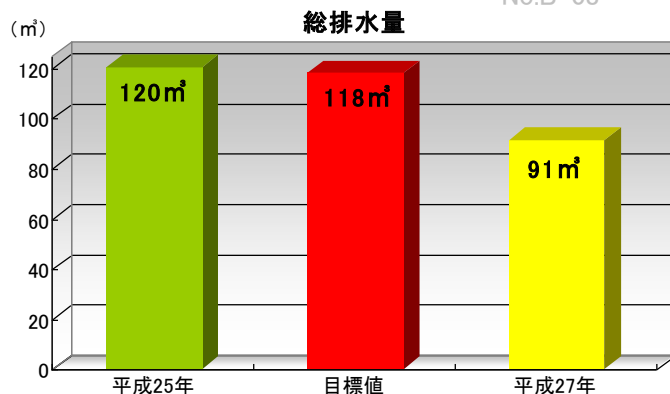
4) グリーン購入の推進

・平成 27 年度事務用品購入品目は、42 品目で内 28 品目がグリーン商品でグリーン商品購入割合は 67%と目標(平成 25 年度実績値、74%以上)を達成できませんでした。



5) 総排水量

・平成 27 年度の水使用量は、91 m³と平成 25 年度(基準年)の 120 m³より 24%削減し、目標(119 m³以下)を達成できました。



6) 地域の環境保全活動への協力

・平成 27 年度は、地域の清掃活動への参加は、2 回で目標(年 2 回)を達成できました。

● 環境活動計画と取組み結果の評価

環境目標	具体的方策	管理部門	実行責任者	実施状況※
産業廃棄物リサイクル率100%維持 (中間処理うち再資源化量/産業廃棄物中間処理量)	・可能な限りの手解体	業務部	澤田淳	2
	・分別の徹底			2
	・リサイクルルートの更なる活用			2
二酸化炭素排出量 (産廃中間処理量+総物質投入量当り)の2%削減 (二酸化炭素排出量/産廃中間処理量+総物質投入量) 【平成25年度比】	【電気使用量削減】 ・休憩時間の消灯 ・廊下やトイレの不必要な電灯の消灯 ・設備電源の空転時停止	総務部	澤田波留奈	2
		業務部	澤田淳	2
		業務部	澤田淳	1
	1			
	2			
	【化石燃料使用量削減】 ・各車両の燃費把握 ・アイドリングストップ(重機械・車両) ・急発進、急加速、急停止の禁止 ・運行経路の確認 ・各車両、重機の定期点検	業務部	澤田淳	2
業務部		澤田淳	2	
事務用紙使用量の2%削減 【平成25年度比】	・パソコン、電子メール、電子媒体の活用	総務部	澤田波留奈	2
	・両面印刷、両面コピーの励行			2
	・社内文書の電子化			2
グリーン商品購入割合74%以上 (グリーン商品品目数/事務用品購入品目数) 【平成25年度比】	・不必要な物品購入を行わない	総務部	澤田波留奈	2
	・エコ・グリーンマーク製品購入の推進			2
総排水量の2%削減 【平成25年度比】	・手洗用水の節約	全部門	澤田波留奈	2
	・洗濯用水の節約			2
化学物質使用量削減	取扱無し	-	-	-
会社内外の環境美化	地域の環境保全活動への積極的参加	全部門	澤田波留奈	2
	地域の環境保全活動の情報収集			1
環境関連法規の遵守	各講習会への積極的参加	全部門	澤田波留奈	2
	環境関連法規の変更を専門のHPで確認し、チェック			2
環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供	積荷の飛散・落下防止対策	業務部	澤田淳	2
	適切な収集・運搬計画の立案			2
合計A	※取組んでいる「2」、さらに取組が必要「1」、取組んでいない「0」とした合計			45
満点B	B=取組項目数()×2=			48
得点A/B(%)	満点Bに対する合計点Aの割合			94
環境管理責任者の確認評価 (注1)	一年間を通してよく取り組んでいた。			

一年間を通してよく取り組んでいましたが、もう少し取り組みの必要な項目がみられるので、指導し次年度の課題とします。

● 今後の環境目標

今後の短期目標並びに長期目標を下表のように設定します。

項目	基準値	目標値			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
取り扱い廃棄物のリサイクル率向上	産業廃棄物リサイクル率 (中間処理うち再資源化量 / 産業廃棄物受入量)	100% (447.9t/447.9t)	100%維持	100%維持	100%維持
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量(産業廃棄物受入量+総物質投入量当り) (二酸化炭素排出量 / 産業廃棄物受入量+総物質投入量)	58.0kg-CO ₂ /t以下 (82,814kg-CO ₂ / 1,428t)	57.4kg-CO ₂ /t以下 【平成25年度比】 1%減	56.8kg-CO ₂ /t以下 【平成25年度比】 2%減	56.3kg-CO ₂ /t以下 【平成25年度比】 3%減
事務用紙廃棄量削減	事務用紙使用量(A4換算)	9317枚	9,224枚以下 【平成25年度比】 1%減	9,131枚以下 【平成25年度比】 2%減	9,037枚以下 【平成25年度比】 3%減
グリーン調達推進	グリーン商品購入割合 (グリーン商品購入品目数 / 事務用品購入品目数)	74% (23品目 / 31品目)	74%以上	74%以上	74%以上
水使用量削減	総排水量	120m ³	119m ³ 以下 【平成25年度比】 1%減	118m ³ 以下 【平成25年度比】 2%減	116m ³ 以下 【平成25年度比】 3%減
化学物質使用量削減	化学物質使用量	取扱無し	-	-	-
会社内外の環境美化	地域の環境保全活動への協力	2回	2回以上	2回以上	2回以上

注1) 廃棄物排出量の削減は、受け入れる廃棄物の量によって左右されるので排出抑制は困難である為、受け入れる廃棄物のリサイクル率の向上を目標としました。

注2) 二酸化炭素排出量は、仕事量によって左右されるので産業廃棄物受入量+総物質投入量あたりの量を目標値としました。

注3) 購入電力の二酸化炭素は、平成24年度、東北電力株の排出係数0.6を用いて算定しました。

● 次年度の環境活動計画

次年度の環境活動計画を下表のように設定します。

項目	具体的活動計画	管理部門	実行責任者
取り扱い廃棄物のリサイクル率向上	・可能な限りの手解体 ・分別の徹底 ・リサイクルルートの変更活用	業務部	古川賢
二酸化炭素排出量削減	【電気】 ・休憩時間の消灯 ・廊下やトイレの不必要な電灯の消灯 ・設備電源の空転時停止	総務部 業務部	古川純子 古川賢
	【化石燃料】 ・各車両の燃費把握 ・アイドリングストップ(重機械・車両) ・急発進、急加速、急停止の禁止 ・運行経路の確認 ・各車両、重機の定期点検	業務部	古川賢
事務用紙廃棄量削減	・パソコン、電子メール、電子媒体の活用 ・両面印刷、両面コピーの励行 ・社内文書の電子化	総務部	古川純子
グリーン調達の推進	・不必要な物品購入を行わない ・エコマーク、グリーンマーク製品購入の推進	総務部	古川純子
水使用量の削減	・手洗用水の節約 ・洗濯水の節約	全部門	古川純子
化学物質使用量削減	・取扱無し	-	-
会社内外の環境美化	・地域の環境保全活動への積極的な参加 ・地域の環境保全活動の情報収集	全部門	古川純子
環境関連法規の遵守	・各講習会への積極的参加 ・環境関連法規の変更を専門のホームページで確認し、チェックする	全部門	古川純子
環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供	・積荷の飛散・落下防止対策 ・適切な収集・運搬計画の立案	業務部	古川賢

注1) 廃棄物排出量の削減は、受け入れる廃棄物の量によって左右されるので排出抑制は困難である為、受け入れる廃棄物のリサイクル率の向上を目標としました。

注2) 二酸化炭素排出量は、仕事量によって左右されるので産業廃棄物受入量+総物質投入量あたりの量を目標値としました。

● 環境関連法規への違法、訴訟等の有無

(1) 違反・訴訟等

環境関連法規遵守チェック表で環境管理責任者がチェックした結果、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等、環境関連法規への違反はありませんでした。また過去 3 年関係機関等からも特に指摘等は無く、訴訟等も1件もありませんでした。

● 代表者による全体評価と見直し

・環境方針

変更の必要なし

・環境目標、

変更の必要なし

・環境活動計画

変更の必要なし

・環境経営システム

変更の必要なし

・総括

全体的によく取組んでいる。平成 28 年度も引き続きこの体制のまま協力して活動するように。

【環境活動の周知】

・切断圧縮破砕機の節電ポスター掲示



・破砕機への節電ポスター掲示



・手洗い場への節水シール貼付



・トイレへの節水ポスター貼付



・照明スイッチへの節電シール貼付



・環境管理重点テーマ及び安全方針カードの配布

